

第 13 回北海道プライマリ・ケアフォーラム

抄 録 集

ワークショップ第 1 部 (13:00~14:20)

<WS①>プライマリ・ケアの会・介・解

「いつもゼロからのスタート—極地、災害、地域で実践する『何でも診る、どこでも創る』マインド」

【講 師】及川 欧 先生 (医療法人社団 shindo 整形外科進藤病院)

【紹介文】極限の現場で「ないなら創る」を実践してきた歩みは、限られた資源で最善を尽くす精神に基づく。本企画では極地や被災地での医療のリアルを紐解き、ゼロから場を創り出す楽しさと勇気を医療人に届ける。

【抄 録】私の歩みは常に「ゼロからのスタート」だ。遺体袋を開いた極限の生死の境で、現状維持を排し「ないなら創る」と挑んだ現場の共通項は、限られた資源で最善を尽くすプライマリ・ケア精神そのもの。本企画では極地や被災地での診療の工夫とシステム構築のリアルを企画者の医大生と紐解く。不確実な時代を生きる医療人へ。橋がある？ないなら架ければいい。ゼロから場を創り出す楽しさと勇気を届ける。

<WS②>在宅看護

「つなぐ・育てる在宅看護：新卒から始める訪問看護と訪問看護師のキャリア形成」

【講 師】青柳 道子 先生 (札幌市立大学 看護学部 在宅看護学領域)

【紹介文】学会フォーラムでは、新卒訪問看護師の育成と訪問看護師のキャリア形成をテーマに、教育の現状や先進的な取り組みを共有します。若手看護師と現職訪問看護師が対話を通して課題や工夫を持ち寄り、在宅看護を担う人材育成と持続的な成長のあり方をともに考えます。

【抄 録】本ワークショップでは、在宅看護を志す若手と現職の訪問看護師がともに学びながら、新卒訪問看護師の育成と訪問看護師としてのキャリア形成について考えます。はじめに、在宅看護学教育の現状や新卒訪問看護師育成の取り組み、訪問看護師のキャリア形成の可能性について共有します。続いて、参加者同士で新人看護師の育成や訪問看護師のキャリア形成について、実際の取り組みや直面している課題、解決に向けた工夫などを話し合います。こうした対話を通して、今後の在宅看護を担う人材育成のあり方や、訪問看護師が成長し続けられるキャリア形成について、ともに考える機会にしたいと思います。

<WS③>A I

AI 多職種臨床シミュレーション -参加型 OSCE 大会-~生成 AI を攻略せよ！チームで挑む模擬カンファレンスバトル~

【講 師】三原 弘 先生 (札幌医科大学 総合診療医学講座)

【紹介文】生成 AI があなたの対話力をガチ採点！多職種チームで挑む、未来型臨床シミュレーションを体感せよ。

【抄 録】医療教育の未来がここに！話題の生成 AI を臨床教育の現場にインストールした最先端ワークショップです。ゲーム性の高いシステムを使い、多職種混合の視点から難解な症例へアプローチする模擬カンファを体験します。AI 利用の注意点から実臨床での応用までを 80 分に凝縮。AI を賢く使いこなし、地域医療の質を高める次世代の多職種 IPE コミュニティを共に構築しましょう！

ワークショップ第2部（14:40～16:00）

<WS④>多職種連携

つなぐ、つたわる、チームのチカラ ～症例から紐解く、多職種連携の頼り方・交わり方～

【講師】 松田 諭 先生（ファミリークリニックさっぽろ山鼻）

【紹介文】 「あの職種は何を考えているんだろう？」その疑問こそが連携のスタートラインです。誤嚥性肺炎の事例をもとに、各職種の役割を再認識し、意見のすれ違いを乗り越えて一つのチームになる方法を学びます。

【抄録】 医療職としての専門性を活かすには、他職種を「正しく頼る」力が必要です。本ワークショップでは、誤嚥性肺炎の症例をもとに各職種の強みをとらえなおします。さらに方針にズレが生じた際、それぞれの「問題の捉え方」をフラットに話し合うことで、チーム医療として同じ方向を向くためのマインドを養います。学生からベテランへ繋がる、未来の多職種連携の基礎をここで身につけましょう。

<WS⑤>ポリファーマシー

薬剤師部会 presents！対話でひもとくポリファーマシー

【講師】 石井 充章 先生（北海道科学大学薬学部）、内藤 聡 先生（ホシバ薬局西12条店）、
齊藤 紗紀 先生（なの花薬局札幌二十四軒店）

【紹介文】 rPATDや事例から患者の思いに寄り添うポリファーマシー対応を学び、対話を深める企画です。減薬したいができない課題を現場の経験から紐解きます。薬剤師に限らず、多職種のご参加をお待ちしています。（98字）

【抄録】 高齢化の進展、医療費の増加に伴い、ポリファーマシーへの対応は医療現場において重要な課題となっています。本ワークショップでは、ポリファーマシーの基本的な解説と、患者の減薬に対する思いや認識を把握するツールの rPATD について、薬剤師の実践事例を交えてご紹介します。皆様の職場のジレンマや、これまでの経験を共有し、明日からのチーム医療に活かせる新たな視点を探ってみませんか？ ポリファーマシー解決に向けて共に歩みたい皆様のご参加をお待ちしています。

<WS⑥>行動変容

ロールプレイで学ぶ動機づけ面接—患者の価値観に寄り添う行動変容支援—

【講師】 川口 篤也 先生（道南勤医協函館陵北病院 総合診療科）、
石谷 巧 先生（勤医協中央病院腎臓内科）

【紹介文】 ロールプレイを通じて、明日から使える動機づけ面接のエッセンスを体験的に学びます。

【抄録】 生活習慣病の改善や禁煙への支援において、患者の行動変容を促すことはプライマリ・ケアの重要な役割です。一方で、行動変容を求められる患者は「変わりたい気持ち」と「変わりがたくない気持ち」の両方を抱えていることが少なくありません。本ワークショップでは、動機づけ面接の基本的な考え方について学んだ後、ロールプレイを通して患者へ行動変容を促す動機づけ面接を行います。参加者同士の振り返りや講義を交えながら面接技法を深め、患者の背景や価値観に目を向けた行動変容支援について考えるワークショップです。

学術集会 一般演題（口演）（16:10～17:20）

北海道ブロック支部第 11 回学術集会/第 106 回北海道医学大会 プライマリ・ケア分科会

全 9 演題：「プログラム・抄録集」は支部ホームページをご覧ください。

【一般演題 1】6 演題（16：10～17：20）座長 阿部 計大（北海道大学 大学院医学研究院 医療政策評価学）

【一般演題 2】3 演題（16：10～17：20）座長 三原 弘（札幌医科大学 総合診療医学講座）

学術集会並行企画（学生対象）（16:10～17:20）

あなたの学部、何してる？～学生目線の多職種連携～

【紹介文】学部を越えて学び合い、多職種連携を学生目線で考える企画です。学生の皆様のご参加お待ちしております。

【抄 録】多職種連携の症例検討を学生目線でディスカッションしませんか？本企画では、参加者同士が気軽に意見を出し合えるグループワークを行います。各職種の役割を学び合い、それぞれの学部で普段何を勉強しているのかを楽しく共有しましょう。他学部の仲間と深く交流し、多職種連携への理解を深める絶好の機会です。皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

基調講演（17:30～19:00）

ハウスキーピング～北海道の安心のために我々にできること

【講 師】江角 悠太 先生（国民健康保険志摩市民病院）

【抄 録】へき地で働く医療従事者が、今後最も重要な存在となる。それは、利他の精神に溢れているからである。全国どこでも必要とされる職種であるにも関わらず、わざわざ不便と言われる地域に自分や家族の身を置き、そこに暮らす人々の人生を支える。日本全国の中で、北海道は最もへき地面積が広く、へき地度が高い地域であり、へき地最前線で働く方々にただただ、畏敬の念を抱くばかり。その尊い方々に私の口から言えることは何もなく、ただ感謝と敬意をお伝えします。